

(熊本県立熊本高等) 学校 令和7年度(2025年度)学校評価計画表

1 学校教育目標
建学の精神である「士君子」の養成を教育目標とし、徳性、智能、体力ともすぐれた人物を養成することを方針とする。また、「深い自己理解のもと、個性を生かし、社会に積極的に関わっていく、自立した個人」をSI(スクール・アイデンティティ)として規定し、教育に取り組む。

2 本年度の重点目標
「士君子タルノ修養」を最上位の目標に掲げ、生徒の自主性と成長の可能性を信じて教育活動に邁進し、校訓の冒頭にある「誠実」な心、人生を豊かにする「教養」、美しいものに心動かす「感性」を育む。加えて、スクール・ミッションに掲げてあるイノベティブでグローバルな人材を育成するために、ICTを積極的に活用するなどして、新たな教育へも果敢に挑戦し、高度で深い学び、探究的な学びを展開する。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	「士君子」養成 (志の高揚)	学校文化の継承	学校活動全般に建学の精神を反映させる	職員間で適宜積極的な意見交換を行い、生徒に投げかけながら学校全体で取り組む	A	職員間の意見交換が生徒の学習活動や学校行事に反映し、組織的な体制による充実した教育活動が行われた。生徒は文化祭や体育祭などの主要な行事を経験したことで主体性が育まれ、対外的な活動にも「二兎を追う」姿勢で積極的に参加した。
		安全管理に関する意識向上	学校活動全般における安全に対する高い意識を持ち、安全かつ安心して生活を送ることができ	防災主任、健康安全係を中心に、校内安全心に、校内安全点検の実施及び自然災害発生時に対応したマニュアルと体制に基づき取り組む	B	年3回の定期的な安全点検を中心に職員全体で協力して行うことができた。指摘のあった危険箇所に対する対応も速やかに行われた。消防火避難訓練の実施や熊本市震災対処訓練への参加等、危機管理マニュアル等に沿った確認と行動を実践できている。マニュアルについては、様々な状況を想定して随時見直しをする必要がある。生徒・職員の安全に対する意識の更なる醸成が課題である。
	開かれた学校づくり	情報の公開	学校の取組を速やかに情報発信する	情報管理係を中心に、ホームページの更新・充実(特に学校行事)を図る	B	体育祭・文化祭など学校行事の様子は発信している。生徒・保護者への連絡は「すぐー」を活用している。生徒の活動を紹介するページ(特に部活動)の充実が今後の大きな課題である。
		学校や授業の公開	授業公開や学校行事をできるだけ多くの方に公開する	公開授業、文化祭、体育祭の学校行事に保護者や中学生、地域の方を案内する	A	年2回の公開授業を、本校保護者向けと中学3年生向けに分けて実施したが、多くの参加を得ることができた。文化祭・体育祭も大盛況であった。
	育友会との連携	育友会総会・学年別懇談会・保護者会の充実を図る	各学年や対外連携係を中心役員と連携を図り、従来の形式・計画によ	A	育友会総会や学年保護者会をはじめとする、育友会行事を成功裏に終えることができた。とくに、体育祭は初めてのパークドーム	

				る育友会行事を再構築して実施する		での開催であったが、協力のおかげでスムーズに運営できた。
	業務改善 働き方改革	勤務環境等の 整備	行事の精選及び校務分掌の見直しと信頼に基いた安心感ある職場環境を目指す	勤務実態調査、学校評価等による見直しを図る	A	勤務実態調査をもとに職員の健康状態を把握し、超過勤務の改善に努めた。職員会議・研修の方法を工夫した。定時退勤の期間を設けたりするなどの取り組みを行った。ストレスチェックを通して職員の健康状態を確認し、産業医による指導・助言を仰いだ。
学力向上	授業の 質の向上	職員間による 指導内容の 共有化	単元の区切りごとに年間指導計画にしたがって授業を実施する	各教科で十分に検討し、指導計画を作成し、授業の質の向上を図る	B	教科・科目内で、単元ごとに指導計画や内容の検討が行われ、授業の質の向上につながった。教科の枠を超えて授業を見学も一定程度見られたが、より活発な教科間交流が行われるよう働きかけたい。
	考査の 質の向上	思考力を 深める 考査問題の 作成	考査問題（定期考査、校内模試、実力考査）の充実を図り、特に校内模試では進路指導の核となる問題の質を確保する	教務課、進路課が立案する考査実施計画に基づき、各教科で十分な検討を行い、デジタル採点も活用しながら、質の高い考査問題を作成する	A	校内模試は本校進路指導の拠り所となるものであり、また定期考査では授業内容の定着度を見る意味を持つ。本校の進路指導の両輪ともいえる考査であり、各教科・科目とも十分に時間を割き、質の高い問題作成に力を注いだ。
キャリア教育（進路指導）	生徒の 進路目標実現	次代のグローバル社会を担う、自主的探究心を持つ 人材育成	探究活動及びSTEAM教育の充実を図る	教育研究課、教務課を軸に外部団体との連携や、ICTの積極的な活用により、総合的な探究の時間を中心に取り組む	A	「総合的な探究の時間」の3年間を見据えた実施方法や発表手順が確立し、精度を高めることができた。職員・生徒のICT活用スキルが向上し、探究型授業の支援体制を構築できた。台湾の姉妹校との交流や職場体験など他者との交流においても進歩が見られた。
		生徒の 進路意識の 高揚	進路に関する 個人面談を 実施する	年2回以上、各学年で立案、実施する	A	入学直後に進路観を講話でフラット化した後、巡回面談など濃密な個人面談を学校全体で取り組み、進路意識の高揚を図った。低学年時からの難関大や医学科志望者への情報発信・指導も増えた。
		職員間の 進路情報の 共有化	進路検討会参加を通して進路情報を共有する	進路検討会を年2回実施するとともに、先進校及び難関大視察を行う	A	年間2回の進路検討会を実施し、各生徒の細かな進路選択状況の情報共有を図った。医学部入試研修、東大京大入試動向研究もウェブ共有配信できた。今年度は他県トップ校からの学校訪問も増え、先進校との情報交換、難関大視察も充実した。
生徒指導	品位・品格の 定着と 良識ある行動	端正な 制服の着用	士君子として品位ある制服の着用ができるようにする	必要に応じて整容指導及び登校指導を実施する	B	整容指導について、日々の学校生活を通して全職員で指導に取り組んだ。服装検査は自律心向上を目的として、職員主導から生徒（室長・副室長）主導の形式に変更して実施し

						た。また、1月始業式時に生徒会より制服の着こなしについて、確認と呼びかけをおこなった。
		交通安全に関する意識向上	危険事例について生徒も共有する	朝礼、LHRやICTを活用するとともに、ヘルメット着用を推進する	B	交通安全講習会や掲示、全校生徒への連絡・周知に努め、軽微な自転車事故の発生件数はやや減少した。来年度から導入される自転車の反則制度について、12月終業式で警察署からの周知をおこなった。
	自主自立の精神の涵養	学校行事への積極的取組	各種学校行事に主体的に参加する態度を育む	生徒課・各学年が連携して、立案する	A	生徒会総務委員会と各実行委員会が各課・各学年と連携しながら学校行事の企画・運営に取り組むことにより、生徒の主体的な参加につながった。
		ボランティア活動の推進	ボランティア活動に積極的に参加する態度を育む	各クラスのボランティア推進委員に生徒への啓発・働きかけを促す	B	部活動単位でのボランティア推進委員の働きかけにより、より多くの生徒が校内外でのボランティア活動に、積極的に参加した。
	学校生活への不安を抱えた生徒への対応	保護者との連携強化	生徒に関する気づきに応じて必要に応じて速やかに保護者へ連絡、情報の共有を図る	教育相談係・各学年等で連携して日常的な気づきの機会を増やし、面談等も適切に行いながら保護者と連携する	B	担任と保護者が面談や電話連絡等を通じて生徒の情報を関係職員とすみやかに共有することや、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに繋げる等、迅速かつ組織的に対応することができた。
人権教育の推進	人権学習の取組みの充実	生徒の人権意識の向上・自尊感情の育成	年間3回以上の人権をテーマとするLHRを実施する	人権教育推進委員会を実施計画を立案し、学期に1回各学年で取り組む	B	人権学習を学期1回のLHRで実施することの向上を図ることができた。
		特別支援教育の充実	校内研修を実施し、職員間の情報の共有を図る	特別支援教育コーディネーターを中心として研修を立案、支援を要する生徒の対応を中心に学校全体で取り組む	B	関係職員を中心に個別の教育支援計画について情報共有し、作成・更新の有無について確認することができた。さらに、次年度に向けて、既存の委員会や組織的に取り組む方向で準備を進めることになった。
	命を大切にす る心を育む 指導	生命の尊重や 自尊感情の 育成	ソーシャルスキルトレーニングといった、他者を尊重すると共に自尊感情を育む取組を実施する	教育相談係と各学年で連携し、学校行事・LHR等で適宜実施する	B	学校行事・LHR等で担当と学年で連携しながら計画的に実践すると共に、職員間で情報の共有を図った。
いじめの防止等	未然防止	職員の連携強化	様々な場面で生徒の様子を観察し、職員間で情報を共有する	生徒課及び教務課が立案する年3回の授業相互見学その他、適宜職員間で情報を共有し、組織的に対応する	A	担任や関係職員が面談等を通じて生徒の状況を細やかに把握し、情報集約担当者で随時報告することで、迅速かつ組織的に対応することができた。また、授業相互見学を各学期に1回実施し、生徒の様子を観察することを得た情報を共有できた。

	早期発見	生徒の実態の把握	個人面談や心のアンケートなどを通して早期の気づきにつなげる	教育相談、各学年で年2回以上の個人面談や年2回以上の心に関するアンケートを立案・実施し、いじめ案件があれば情報集約担当者を中心として組織的に対応し、必要に応じて保護者と連携を図る。欠席10日を超える生徒の情報を集約し、定期的に観察する	A	各学年で連絡会を実施し、生徒の情報を共有することで日頃の支援に繋げた。6月と12月実施した2回のアンケートの結果を参考にしながら、悩みや課題を抱えている生徒に対し、迅速に学年・養護教諭やSCなどと組織的な対応を行った。欠席が増えた生徒を定期的に確認し、該当生徒の状況を確認したことで、学年・養護教諭やSCなどと連携して行うことにつながった。
教育環境の整備	教育の情報化	教育の情報化の促進	オンライン学習の充実やICT機器の充実や操作の習熟を図る	一人一台端末の活用を軸に、ICT活用係の立案に基づいて取り組む	B	効果的な使用を磨く必要がある。また、端末の経年劣化による故障が多かった。来年度からは生徒購入となり、その点は改善されると思われる。
	環境保全・環境美化	校舎内外の整備と美化への取組	清掃活動へ積極的に取り組む姿勢を育む	日常的な清掃に加え、健康安全係が立案する年2回の除草作業にも積極的に取り組む	B	複数の委員会の協力ののもと、5月に全校生徒および全職員で協力して除草作業を行うことができた。日常的な清掃では設備の老朽化や掃除監督教諭の担当場所が複数あることが課題である。
	図書館の充実	図書館の積極的活用	各教科や総合的な探究の時間における図書館利用の拡充を図る	図書放送係の立案に基づき図書委員を積極的に活用しながら取り組む	B	多様な学びを保障するため(洋書を含め)書店等で生徒が出会えない本を努めて選書した。また、委員生徒を中心に生徒目線での選書にも努めた。
地域連携	地域とともにある学校づくりの推進・地域防災組織の構築	教育活動の充実、地域・関係機関との連携強化	学外の視点を取り入れながら、本校教育全般の充実を図る	年2回学校運営協議会を開催し、委員の意見を学校の教育活動や、学校防災の推進体制に反映する	A	地域の実態や外部の専門的な見地から学校運営に資する貴重な意見が得られ、今後の修正・改善に向けて参考となった。安全危機管理について防災組織・体制を確認し共有した。

4 学校関係者評価

- ・質の高い授業実践を軸としつつ、これまでのICT活用の知見を生かして学びの充実を図る。併せて、最新の入試情報を全職員で常に共有し、組織的な授業改善を継続していく必要がある。
- ・登下校時、自転車通学生の交通事故等の危険から生徒を守るため、警察等の外部機関と密に連携した交通安全指導を強化する。生徒自身の危険予測能力を高め、安全意識を習慣化させるための予防的措置を徹底することが重要である。
- ・校則については、これまでの改定の経緯を踏まえ、生徒の主体性を尊重した実態に即した運用を目指す。今後も生徒・保護者・教職員が協議する場を設け、適切な規定のあり方を検討し続ける必要がある。
- ・不登校などの課題を抱える生徒に対し、SCや関係機関との連携を一層深め、初期段階での迅速かつ組織的な支援体制を確実に行使していく。
- ・気象災害や震災等の緊急時において、生徒・職員の安全を最優先に確保できるよう、連絡体制の構築・強化を図る。また、「危機管理マニュアル」を定期的に検証し、有事の際に迅速かつ的確に対応できる体制を維持しておく必要がある。

5 総合評価

- ・スクール・ミッションに基づく学校教育目標の実現に向けて、各課・各学年で組織的に取り組まれている成果が現れ、各項目において全般的に高い評価となっている。
- ・保護者や地域からの関心が高い学習・進路面については、全体での難関大学に関する研修や進路検討会をはじめ、教科担当者間では作問の検討会や教材研究を行うことで、本校に求められる質の高い授業や充実した進路指導が実践されている。
- ・生活面は、生徒・保護者・教職員が意見交換を行う機会を設けるなどして検討が重ねられ、指定服の追加を行った。また、委員会活動を主に交通安全意識を啓発したり、防災訓練を実施して意識の高揚を図ったりするなど、安全危機管理に関する取組が実践された。
- ・ICTの活用については、オンラインによる全校・学年集会の効率的な運用を定着させるとともに、デジタル採点の積極活用や授業でのICTツールの工夫により、業務改善と教育効果の両立が図られた。

6 次年度への課題・改善方策

- ・伝統ある学校行事や諸活動について、これまでのスリム化の成果を検証し、生徒の主体的な活動を保障しつつも、職員の働き方改革に資するよう、より弾力的・効率的な運営形態への転換を継続して推進する。
- ・校内施設の老朽化に対する計画的な修繕を継続するとともに、生徒の学習意欲を高める環境整備を推進する。特に、ICT環境の安定運用と、安全・安心な居場所としての教室環境の質的向上を図る。
- ・校則等の規定については、生徒・保護者・教職員による協議のサイクルを確立し、不断の見直しを行う。単なる緩和ではなく、社会規範等に基づいた規定を段階的に整備していく。
- ・不登校などの課題を抱える生徒への支援として、SCやSSW、医療機関等の外部専門機関との連携を一層深化させ、組織的かつ継続的な支援体制を構築する。生徒一人ひとりの悩みの的確な把握に努めるとともに、豊かな人権感覚を醸成し、すべての生徒が安心・安全に過ごせる学校づくりを推進する。
- ・自転車通学におけるヘルメット着用の定着化を図るため、生徒会や交通委員会による主体的な啓発活動を支援する。警察との連携を通じ、実効性の高い交通事故防止策を継続的に展開する。
- ・ICTの活用については、質の向上を目指す。デジタル採点や生成AIの活用等の事務効率化をさらに進めるとともに、より深い学びを実現するため、校内研修等を通して教育効果の最大化を目指す。